

国宝 高田本山 専修寺

お七夜



— 声明 —

平成30年 東京国立劇場でも披露された声明「報恩講式」がお勤めされます。伝承350年の響きを是非ご体感ください。

日時 1月15日(金) 16:30～

事前申し込み制

300席限定

詳しくはHPをご覧ください。

お七夜とは

1年に1度の

親鸞聖人を偲びつつ、

そのお徳を

感謝する法会です。

新型コロナウイルス
感染症対策中

※詳細はHPをご覧ください。

令和3年

1月9日(土) ▶ 16日(土)

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により行事等を変更および中止する場合がございます。※詳細はHPをご覧ください。



報恩講のしおり



ようこそ報恩講へ

宗務総長 増田 修誠

新しい年を迎え、希望に満ちた一步を歩み始めた皆さまと共に報恩講のご勝縁に恵まれましたこと、誠に有り難く、この仏縁をつないでいただいた先達のご苦勞に深く頭が下がるばかりであります。

さて、私共が今まで経験したことのない新型コロナウイルス感染症の終息する見通しどころか、先が見えない状況に大きな不安を抱えながら、感染拡大という極めて厳しい事態であります。感染症療養中の方々、そのご家族皆さまに心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早いご回復を念じ申し上げます。また緊迫した状況下で治療に尽力されている医療従事者の皆さま方、社会のライフラインを支えるお仕事に従事されている皆さまにも深く敬意と感謝を表する次第であります。

このような状況下で、全国の高田派寺院・檀信徒皆さまには、仏事・法会に様々な配慮や苦渋の決断をされておられることと存じます。本山におきましても、感染症拡大防止のため、皆さまに安心して参詣いただけますよう感染対策に万全を期してまいりたく、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

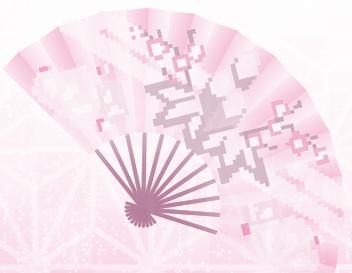
御影堂と如来堂が国宝に指定され、建立より御影堂は約三百年、如来堂は約二百年を経て、脈々と受け継がれた両御堂に響き渡る念仏声明を聞き、その素晴らしさに感銘を受けることであらうでしょう。

親鸞聖人がご生涯をかけて明らかにしていただいた念仏の教えを聞き、御遺徳を偲び「ありがとうございます」と感謝させていただいた法会が報恩講であります。

念仏の教えは「あなたを励まし、あなたを支え、あなたを勇気づけてくださる声なのです」と、親鸞聖人は教えてくださっておられます。

本山参詣の御縁を通して、多くの皆さまと共に手を合わせ、心を合わせ、お念仏を申す人生をいただいていることを今一度お陰さまと深く味あわせていただきたく存じます。

どうぞお時間の許す限り、本山にて心安らぐひと時をお過ごしください。





お七夜行事予定

1月9日(土)

12:30 速夜勤行・説経 ▼ 「親鸞聖人の生き方に学ぶ」

鈴鹿市 欣念寺衆徒 田中 唯聴

16:30 初夜勤行・説経 ▼ 「全部わたしのためでした」

津市 浄徳寺副住職 佐藤 弘道



宗祖親鸞聖人と、高田派の歴代上人の御影を安置するお堂です。寛文六年(一六六六)の建築で、七八〇畳敷という全国屈指の巨大な御堂です。同じく国宝に指定された、親鸞聖人の木像を安置する宮殿は、金箔と極彩色の華麗な彫刻で飾られます。扉の両脇には、昇り龍・下り龍の彫刻が施されており、高田派の仏壇の特徴ともなっています。

国宝

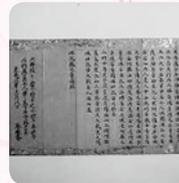
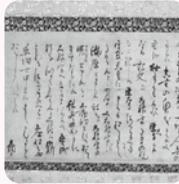
御影堂

みえいどう



高田本山専修寺の見どころ

高田本山の国宝・重要文化財

 西方指南抄	 三帖和讃	 如来堂	 御影堂
 木造阿弥陀如来立像	 絹本著色阿弥陀三尊像	 絹本著色阿弥陀三尊像	 唐門
 紙本墨書後陽成天皇宸翰	 紙本墨書観無量寿經	 見聞集	 御廟拝堂・唐門透塀
 慈円白筆書状	 唯信鈔・唯信鈔文意	 尊号真像銘文	 大玄関・対面所
 親鸞聖人消息	 顕浄土真実教行証文類	 専修寺聖教	 鐘楼
 紙本淡彩歌仙像	 紙本著色善信上人給詞伝	 紙本墨書水鏡	 専修寺文書
			 茶所

1月10日(日)

- 7:00 晨朝勤行・説経▼「外儀のすがた」
津市 来照寺衆徒 生桑 崇等
- 10:30 日中勤行・説経▼「光明のおはたらき」
松阪市 法性寺衆徒 真置 信海
- 12:30 大講堂説経▼「言葉を遺す」
和歌山市 崇賢寺住職 松田 信慶
- 13:00 坊宮屋敷見学会
- 14:00 逮夜勤行・説経▼「師主知識の恩徳」
鈴鹿市 随願寺住職 松山 智道
- 16:30 初夜勤行・説経▼「無明長夜の燈炬なり」
津市 報恩寺住職 芳川 賢史

1月11日(月)

- 7:00 晨朝勤行・説経▼「愚かしさと賢さ」
四日市市 立法寺住職 岡 知道
- 10:30 日中勤行・説経▼「我行精進・忍終不悔」
大野市 専福寺住職 金森 顕宏
- 10:30 お七夜新成人のつどい
- 12:30 大講堂説経▼「闇の中」
岡崎市 蓮珠寺住職 安藤 純海
- 14:00 逮夜勤行・説経▼「五濁悪世の有情の」
鈴鹿市 深禱寺住職 浦井 宗司
- 16:30 初夜勤行・説経▼「御開山の海」
津市 真楽寺住職 鷺山 了悟

国定

如来堂 によらいどう

本尊である阿弥陀如来像を安置する、高田本山専修寺の本堂です。寛延元年（一七四八）の建築で、禅宗仏殿様式の外観に、真宗本堂としての内部空間が巧妙かつ豪華に造られています。

二重屋根上層の軒組みを見上げると、尾垂木の先端が象・龍・狻にあって、多く動物の彫刻を随所に見ることができます。



御対面所 おたいめんじょ

大正元年まで、同行衆が法主と対面する場所として使用されていました。そのため上々段・上段が設けられています。



安楽庵 あんらくあん

池を中心に、自然の美をそのまま生かした庭園に佇むお茶室です。江戸時代初期の名席と言われています。



庭園見学

10時
13時

安楽庵の庭園をご案内します
茶所前にお集まりください
※9日は13時のみ 16日は10時のみ

1月12日(火)

- 7:00 晨朝勤行・説経▼「ソーシャルディスタンスに
想う」
鈴鹿市 了性寺住職 藤井 徳雄
- 10:30 日中勤行・説経▼「まことのみむね」
岡崎市 浄泉寺住職 戸田 恵信
- 12:00 お七夜婦人連合会
〈講師〉豊橋市 正太寺住職 大河戸 悟道師
- 12:30 大講堂説経▼「浄土真宗に帰すれども
真実の心はありがたし」
四日市市 光輪寺住職 中村 宜成
- 14:00 逮夜勤行・説経▼「ハイは拜、ハイそうでした」は
南無阿弥陀仏」
四日市市 浄福寺住職 隆 妙瀧
- 16:30 初夜勤行・説経▼「功德の宝海みちみちて」
津市 採蓮寺住職 若林 妙百

1月13日(水)

- 7:00 晨朝勤行・説経▼「竹」
津市 玉保院衆徒 水沼 碧水
- 9:00 特別講演(如来堂)
「Go To トラベル 親鸞聖人ゆかりの地から」
鈴鹿市 正念寺住職 梅林 久高
- 10:30 日中勤行・説経▼「念仏の道」
鈴鹿市 欣念寺住職 田中 明誠
- 12:30 大講堂説経▼「報謝の称名」
大阪市 聖賢寺住職 島 義厚
- 12:30 お七夜坊守会(宗務院)
〈講師〉四日市市 誓元寺住職 栗原 廣海師
- 14:00 逮夜勤行・説経▼「宿業」
豊橋市 正太寺住職 大河戸 悟道
- 16:30 初夜勤行・説経▼「阿弥陀様のお声を聞く」
鈴鹿市 法林寺住職 里榮 秀教

報恩講式

報恩講式とは親鸞聖人の孫にあたる覚如上人が聖人の三十三回忌に際し、その恩徳を讃嘆するためにつくられました。

真宗のお寺においては、本山でも一般寺院でも報恩講が最も重要な法会です。報恩講式の順読を中心とした整った勤行形式、作法、また、報恩講式の拝読の複雑かつ独特な節回しも固有のものになっています。

高田本山の報恩講は、毎年一月九日から十六日まで七昼夜八日間です。御満座となる十六日は親鸞聖人の命日で旧暦の十一月二十八日にあたります。

報恩講式は表白・初段・二段・三段で構成されており、お七夜期間中の勤行は一日四座あり初夜に報恩講式が順次拝読され、十五日初夜には全文が拝読されます。

表白では、仏法僧の三宝に対し、生まれがたき人間に生まれ、あいがたき仏法にあり、親鸞聖人のご教化により、阿弥陀仏が過去に建てられた衆生救済の請願、すなわち本願を聞き得たことを歓喜し、聖人の徳を三段にわけて讃嘆いたしますと表明しています。

初段は真宗興行の徳。親鸞聖人は広く仏教を学び、修行を励まれましたが、法然上人に出会い、誰もが救われるお念仏の教えを授かり、ほかに救いの道はないと知って、自らの信心を人々に教えを説いて信心の道に差し向ける生涯を送られました。真宗をひらかれ、それを私たちに示された聖人に感謝し、お念仏をしなければなりませんと表されています。

二段は本願相應の徳。親鸞聖人はひたすら念仏に専念され、阿弥陀さまの他力信心をそなえられた方で、その説き弘められる教えは阿弥陀さまの本願にかなうものです。私たちがこのご恩に報いるには、ただ阿弥陀さまにおまかせし、お念仏に励む以外ありませんと表されます。

三段は滅後利益の徳。親鸞聖人亡きあとも人々に利益をもたらしつつづけています。祖廟に参詣したものはみな、聖人の温顔を思い出し、書き残された聖教を拝読し、この教えを伝えていく決意をあらたに、ひたすらにお念仏いたしますので、どうぞお救いくださいと表されています。

1月14日(木)

- 7:00 晨朝勤行・説経▼「むみやまじょうや无明長夜ノ灯炬」
岡崎市 妙源寺衆徒 安藤 章仁
- 9:00 特別講演(如来堂)
「せいじんまこと聖人真筆―筆跡研究百年の歴史と現在」
津市 東海寺住職 鑑学 新 光晴

10:30 日中勤行・説経▼「い仏の世界」

鈴鹿市 浄国寺住職 藤浦 弘導

11:45 責任役員会

12:30 大講堂説経▼「ぶら仏なる」

津市 慈光寺住職 藤山 眞哉

14:00 逮夜勤行・説経▼「涅槃の信をいただく」

明和町 迎接寺住職 花山 光瑞

16:30 初夜勤行・説経▼「じやつかんざ蛇蝎奸詐ノ「ココロニテ」」

津市 善林寺住職 千草 篤昭

1月15日(金)

7:00 晨朝勤行・説経▼「かえり回向のはたらき」

津市 延命寺衆徒 藤田 正知

10:30 日中勤行・御親経

復演(御影堂/御親経後)

四日市市 誓元寺住職 鑑学 栗原 廣海

日中復演後 法主褒章授与式

12:30 大講堂説経▼「ほんねん本願の救い」

松阪市 明照寺住職 藤澤 眞純

14:00 逮夜勤行・説経▼「たいに体に聞く」

鈴鹿市 壽善寺住職 眞置 美徳

16:30 初夜勤行・説経▼「こころコロナの中のナモアミダツ」

津市 浄福寺住職 鈴木 紀生

19:00 白塚通夜講(しし念仏)

23:00 後夜勤行

声明

声明とは法会儀式に際して、经文などに旋律などを付けて唱えるもので仏教の声楽曲ともいえるものです。高田の声明は親鸞聖人もおられた、比叡山の天台声明の流れをくみ、引声念佛は第十世真慧上人が比叡山から直接もらい受けられ高田のみにつたわる声明といわれています。

伝教大師が比叡山をひらいたとき、声明も伝えられました。その後、体系的に慈覚大師によって伝えられました。その後、良忍法師により京都大原に声明の道場となる魚山いさやまが開かれ、ここを中心に天台声明は伝承され、高田にも伝わっております。

報恩講初夜では報恩講式を中心に声明が組み込まれお勤めされています。

六時

法会のお勤めは逮夜より始まり日中で終わります。

七高僧のおひとりとしてあげられる善導の往生礼讃により一日を逮夜(日没)・初夜・中夜・後夜・晨朝・日中と六時にわけて阿弥陀さまを讃嘆し、浄土往生を願い礼拝することによります。仏説阿弥陀経には昼夜六時に曼荼羅華を濡らすと表現されています。

普段の高田本山では六時を代表して晨朝のみおつとめがあり、報恩講では逮夜・初夜・晨朝・日中の四座をおつとめし、最後の夜となる十五日のみ後夜のおつとめがおこなわれています。

一身田寺内町

高田本山と一身田寺内町は、環濠に囲まれた一つの町になっています。

外部から寺内町に入るためには、環濠に架かる三つの橋と門(江戸方面に向かう赤門・伊勢方面に向かう黒門・京都方面に向かう桜門)を通らなければなりません。三つの門は、日の出(明け六つ)から日の入り(暮れ六つ)までしか開いていないので、暗くなってからは寺内町への出入りができません。

報恩講の期間は、それぞれの門に「さかなどめ」の看板が掲げられて、寺内町に魚などのなまぐさが入ることができなくなりました。

報恩講は本山だけでなく寺内町全体で精進をする期間だったのです。

1月16日(土)

7:00 晨朝勤行・説経▼「報恩講にあたって」

津市 最勝寺住職 長谷部 行雄

10:30 日中勤行・説経▼「お念仏は人生の生きる拠りどころ、人生の帰しどころを教えてください」

鈴鹿市 真念寺住職 真目 智海

12:30 大講堂説経▼「『執着』無自覚な私」

京都市 安立寺住職 安田 真源

1月9日～16日

●お七夜献書展 (御対面所～御影堂廊下)

●保育園・幼稚園児の「ののさま展」 (御対面所)

●教団連合「真宗十派報恩講巡り」スタンプリナー (山門)

「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に風の吹かぬものかは」
と歌を詠み、その日に出家を許されたと言います。

比叡山へ夢告

その後、比叡山に上られた聖人は「堂僧」としてひたすら念仏行に励まれていたようです。

しかし、修業で悟りを得ることは出来ず、自身の煩惱・欲望に苦しみ日々が過ぎました。

二十九歳になられた聖人は、救いの道を求めて聖徳太子建立の六角堂へ参籠をされます。そして九十五日目の暁に観音菩薩より夢のお告げを得たのです。

法然上人との出会い

迷いの中にあつた聖人は、観音菩薩のお告げに背中を押されるように、吉水の法然上人のもとへ赴きました。

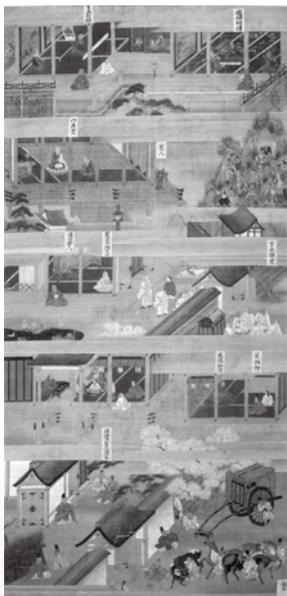
親鸞聖人のご生涯

誕生～出家

親鸞聖人は、承安三年(一一七三)五月二十一日に藤原氏の流れをくむ、日野有範の子として生まれました。

御年九歳にして、慈鎮和尚のもと出家をされます。剃髪の際、若い僧侶が手にあかりを持っているのは、夜であるためです。

日暮れに差し掛かり、次の日に出家の儀式をするこ
とになりましたが、すかさず親鸞聖人が、



親鸞聖人絵伝 第一幅 (津市・専修寺)

修業者だけでなく百姓も町人も武士も商人も含めて、すべての人が救われる念仏の教えに、やっと遇うことができたのでした。出家以来二十年間の苦労もようやく実を結び、更なる浄土の教えの研鑽に努められたのです。

この出会いの歓びを「遇い難くして今遇うことを得たり。聞き難くしてすでに聞くことを得たり。」と書き残しておられます。



親鸞聖人絵伝 第二幅 (津市・専修寺)

承元の法難～流罪

しかし、その歓びも長くは続きませんでした。念仏を称えれば往生がかなうといった教えは、それまで仏

教に縁のなかつた庶民や、女人にあつという間に広まりました。ところが、比叡山や奈良の興福寺などの伝統仏教から専修念仏禁止の訴えが朝廷に出されたのでした。

そんな中、同門の住蓮・安楽が催した念仏集会后鳥羽上皇寵愛の女官数名が参加し、そのまま髪をおろしてしまったのです。これに上皇は激怒し、ついに承元元年（一二〇七）に念仏停止及び、住蓮・安楽ら四名が死罪、法然上人・親鸞聖人を含む八名が流罪という厳しい弾圧に至りました。ときに法然上人は七十五歳、親鸞聖人は三十五歳でした。

聖人は輿に乗せられ、追立役人に警護されて、京都から出発され配流地の越後（新潟県）へ赴かれました。

越後での暮らし

越後での暮らしはほとんど分かっていませんが、妻の恵信尼さまと子供たちに囲まれ、土地の民衆たちと同じ視座で、人間とは何か、世間とは何か、苦

を写したりすることが日課でした。その生活の中で、真宗教義の骨格を数年かけて『顕浄土真実教行証文類』としてまとめ、聖人五十二歳の時、ようやく草稿ができあがりました。

そして、翌年には「高田の地に寺院を建立せよ」「ご本尊として信濃（長野県）の善光寺から一光三尊仏をお迎えせよ」という二つの夢のお告げがありました。これは阿弥陀仏からの勅命であると信じて、遂に高田の地に寺院を建立したのであります。これが高田派の起源です。

晩年〜御往生

念仏に無縁の関東の地に、念仏の種をまかれた聖人の教えは、門徒をはじめ各地に大きく広がりました。

六十歳を過ぎた聖人は、この地を離れる決心をされます。およそ三十年ぶりに京都へ帰られた聖人は執筆活動に心血を注がれ、『三帖和讃』や『浄土文類聚鈔』などを著述されました。さらに、既にできてい

とは何か、そして救いとは何かという事を語り合われた生活だったことでしょう。

そんな中、聖人の流罪が許されますが、間もなく法然上人の往生の知らせも届きました。

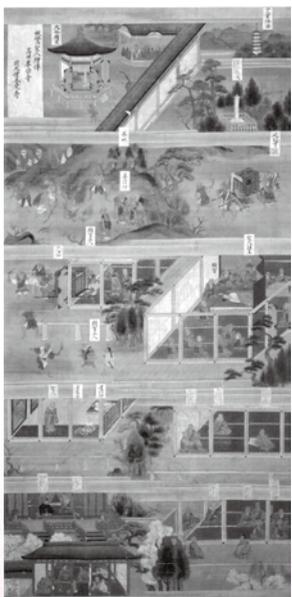
聖人は悩まれましたが、もともと、仏法は、「辺鄙の群萌」（田舎の文字も読めぬような人々）を救済すべきものであらねばならないという考えのもと、家族共々越後より関東へ移られる決心をされたのでした。



親鸞聖人絵伝 第三幅
(津市・専修寺)

高田建立

関東での生活は、常陸国稲田の草庵を中心にして各地に出かけ、念仏の教えを広めたり、多くの仏教文献



親鸞聖人絵伝 第四幅
(津市・専修寺)

た『教行証文類』の加筆や清書もあり、お亡くなりになる直前まで筆をとられました。

幾多の苦難の人生を歩まれた聖人ですが、弘長二年（一二六二）十一月二十八日（新暦一月十六日）、ただた、仏恩の深いことだけを語られ、ついにご往生を遂げられました。御歳九十歳でした。

真宗のみ教えを心の糧として生きる者は、聖人のご生涯をしのび、ますます聞法の道に精進して参りましょう。



弥陀のよび声

「なもあみだぶつ」を聞いてゆこう（特別法要テーマ）

開山親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年・中興真慧上人五百年忌・
聖徳太子千四百年忌奉讃法会（令和五年五月二十一日～二十八日）

報恩講は、宗祖・親鸞聖人のご命日である一月十六日をご縁にして厳修されます。一月九日から十六日までの七昼夜にわたって勤められます。〝お七夜さん〟の名で親しまれ、親鸞聖人にお礼を申し上げる法会です。それは、煩惱具足の凡夫であることから、地獄・餓鬼・畜生の三悪道に墮ちて当然の私たちが、お浄土に往生して、『ほとけ』にならせていただくという、想像もできない他力念仏をお教えてくださったからです。

阿弥陀如来が「わが名を称えるものは、必ずお浄土に往生させます」という超世の願いを成就され、お釈迦さまがこの世に出られて説法され、その道理を七高僧が正しく伝承され、ついに「南無阿弥陀仏」が私たちに届けられたのです。

親鸞聖人が、この経緯を自らの喜びとして、くわしくお示しされたのが真宗の教えです。親鸞聖人は、このご縁は何ものにも代えることができない尊いことだから「身を粉にしても、骨をくだいても報謝すべし」と最大級のお言葉で申されたのであります。お七夜さんには、全国から万余のお同行が参詣されて、お念仏の声が絶えません。国宝となりました如来堂では、ご本尊、阿弥陀如来が「我に任せよ、必ず救う。なもあみだぶつ」と声なき声で喚び続けていらっしやいます。

同じく国宝となりました御影堂では、親鸞聖人が阿弥陀如来のご本願を身に受けて弥陀のよび声「なもあみだぶつ」を共に称え、聞いてゆこうと語りかけてくださいます。

私の声に出てくださいるお念仏の中に阿弥陀如来の本願力（往生浄土、成仏へのお約束）が全て込められています。

親鸞聖人が顕らかにされた、ご本願、お念仏が私たちのためにすでに用意されておりましたと、今こうしてあることの不思議を憶いつつ、今回のご勝縁を皆さまと共に手を合わせ、お念仏を申してゆきましよう。

『なもあみだぶつ…なもあみだぶつ』 合掌

総務 弓削弘胤



特別法要のご案内 令和5（2023）年5月21日～28日

弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう



開山親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年
中興真慧上人500年忌
聖徳太子1400年忌

奉讃法会

親鸞聖人はご誕生以来850年。また教行証文類を著わされてから800年を迎えます。

高田派第10世真慧上人は下野の国高田より現在の一身田に本山を移し、高田派隆盛のもとを築られましたので中興上人と讃仰します。1512（永正9）年に亡くなられました。

聖徳太子は日本に仏教を受け入れられ、親鸞聖人はご和讃でその徳を讃えられています。

これら四つの法会を2023（令和5）年5月にお勤めします。また令和5年5月20日に庭儀式（稚児行列）を行います。

宝物館建設にご協力をお願いします

令和5年に厳修予定の特別法要の記念事業として新宝物館の建設に取り組むこととなりました。現在の宝物館は昭和37年宗祖700回大遠忌の際建設され、爾来50余年、老朽化が進んでおり、法宝物の護持に不安を来しております。この度総工事費約8億円の予算にて、建て替えることとなりました。公私共にご多端のこととは存じますが、一人でも多くの方からご賛同をいただきたくご寄付のご協力をお願い申し上げる次第です。

なお、ご寄付をいただいた方のお名前は懇志簿に記載し、新宝物館に納めます。2万円以上のご寄付の方につきましては、新宝物館の壁面にお名前を刻み長く顕彰いたします。是非ともお名前を刻んでいただきmy-homotukan（マイ宝物館）として、子孫の代まで誇れるような宝物館を目指してまいります。

問合せ先

〒514-0114 津市一身田町2819番地（本山内）
特別法要事務局

TEL 059（232）4177 E-mail tanjou850@senjuji.or.jp

感染症対策にご理解・ご協力をお願いします



■参拝の皆様へ【お願い】

- ・検温、アルコール消毒へご協力ください。
- ・発熱等により体調がすぐれない方の参拝はご遠慮ください。
- ・感染すると重症化しやすいとされている方（高齢者・基礎疾患をお持ちの方）のご参拝は慎重にご判断ください。
- ・境内での食事はご遠慮ください。本年はお非時がありません。

■次の方は入場をお断りする場合がございます。

- ・発熱（37.5℃以上）や咳・味覚・嗅覚障害等の新型コロナウイルス感染が疑われる症状のある方。
- ・新型コロナウイルス感染症陽性で治療中の方、ならびに検査中の方。

本年度のお七夜報恩講においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の行事・祭事の一部が中止、または規模を縮小して開催されますのでご注意ください。また、今後の感染拡大の状況によっては、日程・行事内容が変更される可能性がありますので、何卒ご了承ください

真宗高田派本山 専修寺



高田本山
TAKADAHONZAN

〒514-0114 三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索



特別法要事務局開設

『弥陀のよび声
「なもあみだぶつ」を
聞いてゆこう』

